

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成20年7月10日(2008.7.10)

【公開番号】特開2005-269492(P2005-269492A)

【公開日】平成17年9月29日(2005.9.29)

【年通号数】公開・登録公報2005-038

【出願番号】特願2004-82292(P2004-82292)

【国際特許分類】

H 0 4 R 3/00 (2006.01)

G 1 0 H 1/46 (2006.01)

【F I】

H 0 4 R 3/00 3 2 0

G 1 0 H 1/46

【手続補正書】

【提出日】平成20年5月26日(2008.5.26)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0003

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0003】

一方、近年ではパーソナルコンピュータ(PC)上で所定のプログラムを動作させることにより、音楽製作の各種の機能(例えば、ハードディスクレコーディング機能、ミキシング機能、MIDI機器の制御機能など)を実現するいわゆるデジタルオーディオワークステーション(DAW)やオーディオシーケンサが知られている。上記ミキシング装置と上記DAWやシーケンサとを接続し、連携して動作させるものもある。各機器間の接続には、例えばIEEE1394などの規格に基づくネットワークを用いて、大量のデータを高速転送することができるようになっている。PC上のDAWやシーケンサで作成した音響信号をミキシング装置に入力し、さらに別の入力系統から音響信号を入力してミキシング装置内部でミキシングおよびエフェクト付与し、上記DAWやシーケンサからの音響信号とミキシングして最終的な出力とすることができる。

下記非特許文献1は、従来の一般的なデジタルミキサにおけるモニタ機能を開示する

。

【非特許文献1】DIGITAL PRODUCTION CONSOLE DM2000 取扱説明書，ヤマハ株式会社，2002年，pp.132-138、“第13章モニター、トークバック”、インターネット<URL:<http://www2.yamaha.co.jp/manual/pdf/pa/japan/mixers/DM2000J.pdf>>